

## 分詞構文 1

### 1. 分詞構文

#### 1 分詞構文の働き

まずは例文を見て下さい。

例文：

**Having no money, I didn't buy the book.**

(お金が無かったので、その本を買わなかった。)

この文には接続詞がないのに、「～ので」と、接続詞があるような意味になっています。では、この文を接続詞を使って書き換えてみましょう。

**Because I had no money, I didn't buy the book.**

このようになります。

上の文のように、「接続詞＋主語＋動詞＋～ → 分詞＋～」の形になったものを分詞構文といいます。極端に表現すると、「接続詞と主語を省略して分詞で表した文」のことです。

## 2 分詞構文の意味

分詞構文の意味は大きく分けると5つあります。

	理由	時間	時間（同時）	条件	譲歩
意味	～だから	～のとき	～ながら	～ならば	～としても
	～なので	～の後		～すると	～だけでも
接続詞	since	when	while	If	though
	because	after			

これらすべての意味を分詞構文は持っています。ということは、いままでこれらの接続詞を使ってきた文は、すべて分詞構文に書き換えられます。書き換えの解説は後々しますので、まずはこの表と下の例文をまるまる暗記して下さい。

例文：

[理由]

Having a cold, I saw a doctor yesterday.

(風邪をひいたので、私は昨日医者にみてもらいました。)

[時間]

Going to Tokyo, he watched a baseball game at the stadium.

(東京に行ったとき、彼は球場で野球を見ました。)

[同時]

Walking down the street, I found a 1000-yen bill.

(道を歩いていると、1000円札を見つけた。)

[条件]

**Studying hard everyday, you'll pass the exam.**

(毎日熱心に勉強すると、君は試験に合格するだろう。)

[譲歩]

**Admitting that you completed it, I can't trust you.**

(君がそれを完成したことは認めたとしても、僕は君を信用できない。)

例文さえ覚えてしまえば、あとはパターン化できます。しっかりと覚えて下さい。

## 2. 分詞構文の応用

### 1 分詞構文からの書き換え

では、順を追いながら1. 2の例文を書き換えてみます。

例文：

Having a cold, I saw a doctor yesterday.

- a. 日本語に訳して、どの接続詞が適当か選ぶ。

コンマの前後を訳してみて、接続詞を断定します。「風邪を引く」と「昨日医者にみてもらった」の2文をつなぐには、“～ので”が適当です。だから because を使います。

Because having a cold, I saw a doctor yesterday.

- b. 主語を見つける。

コンマ以下の文と同じ主語にします。だから I を使います。

Because I having a cold, I saw a doctor yesterday.

- c. 時制を判断し、分詞をその時制に合わせる。

コンマ以下の文が過去形なので分詞を過去形にします。だから had を使います。

Because I had a cold, I saw a doctor yesterday. (完成)

a～c さえできれば、他に変更する部分はありません。どうですか、最初は難しいと思います。何回も練習して、パターンを覚えて下さい。では、1. 2にある残りの例文も書き換えておきます。

[時間]

When he went to Tokyo, he watched a baseball game at the stadium.

[同時]

While I was walking down the street, I found a 1000-yen bill.

※ while は同時を表すので進行形を使う場合もあります。

[条件]

If you study hard everyday, you'll pass the exam.

[譲歩]

Though I admit that you completed it, I can't trust you.

## 2 分詞構文への書き換え

1 とは逆の書き換えです。これもパターンさえ覚えれば、あとは単語を変えるだけで応用できます。

例文：

**Because I overslept this morning, I was late for school.**

(私は今朝寝坊したので学校に遅れました。)

この文を分詞構文にしてみます。

### a. 接続詞を省く

接続詞は **Because** です。これを省略します。

**I overslept this morning, I was late for school.**

### b. 主語を省く。ただし、異なる場合は残す。

コンマの前後で主語が同じならば省略します。しかし、異なれば残さなければいけません。この文は両方 **I** なので省略します。

**overslept this morning, I was late for school.**

### c. 動詞を分詞にする。

過去形でも現在形でも **-ing** にします。

**Oversleeping this morning, I was late for school.**

これで完成です。これもたくさん練習して、パターンを覚えて下さい。

### 3 主語の異なる文の分詞構文（独立分詞構文）

先ほどの 2 でも少し触れましたが、コンマの前後で主語が違う場合は、主語を省略することはできません。このような分詞構文を、独立分詞構文と呼びます（※分詞構文 2 でも独立分詞構文を紹介しています）。

例文：

**If it is fine tomorrow, I will go hiking.**

（もし明日が晴れなら、私はハイキングに行きます。）

この文を分詞構文にしてみます。

#### a. 接続詞を省く

これは主語が同じ文と変わりません。接続詞は **If** です。これを省略します。

**it is fine tomorrow, I will go hiking.**

#### b. 主語を省く。ただし、異なる場合は残す。

主語は **it** と **I** です。異なるので残します。

**it is fine tomorrow, I will go hiking.**

#### c. 動詞を分詞にする。

動詞は **is** なので、原形に **ing** をつけて **being** にします。

**It being fine tomorrow, I will go hiking.**

これで完成です。英語が得意な人ほどこの形に違和感を持ちますが、使っていくうちにすぐに慣れます。

#### 4 受け身の分詞構文

これはすごく出題されます。しっかりと覚えて下さい。

例文：

**Because my bag was stolen, I couldn't go there.**

(カバンを盗まれたので私はそこに行けなかった。)

気の毒なこの文を分詞構文にしてみます。

##### a. 接続詞を省く

これまでと同じ方法です。接続詞は **Because** です。これを省略します。

**My bag was stolen, I couldn't go there.**

##### b. 主語を省く。ただし、異なる場合は残す。

これまでと同じルールです。この文は異なるので残します。

**My bag was stolen, I couldn't go there.**

##### c. 動詞を分詞にする。

これまでと同じです。動詞は **was** なので **being** にします。

**My bag being stolen, I couldn't go there.**

##### d. 受け身の **being** は省略する。

そうです、受け身の分詞構文にはこんなルールがあるのです。だからこそよく出題されます。

**My bag stolen, I couldn't go there.**

「**My bag stolen, I couldn't go there.**」これでやっと完成です。受け身の **being** は省略することを覚えて下さい。

Copyright (C) 2008 All Rights Reserved, ちょいデブ親父の英文法